



より高度な臨床
より深い研究
より広い教育
より積極的な保健活動

地域医療連携室だより

Community Healthy Network News

共に診る・共に支える地域医療



かかりつけ医をもちましょう

平鹿総合病院 副院長
地域医療連携室 室長 榎本好恭

厚生労働省の公式ウェブサイトにも、「気軽に相談できる「かかりつけ医」をもちましょう」とあります。専門的な検査や治療は病院で行い、日頃の健康管理や投薬継続などは「かかりつけ医」で行なうことを推奨する、ということです。当院では、病院全体の取り組みとして、状態の安定した患者さんに「かかりつけ医」をおすすめする内容のポスターを院内に掲示し、いわゆる“逆紹介”を積極的に行う方針としました。これからは医療の機能分化、連携はますます重要となります。診療所、介護施設、在宅介護などとの連携がシームレスになるよう情報共有することは大切ですので、当連携室の関わる機会が増すと思います。その際にご協力のほどよろしくお願い致します。

さて、昨冬の大雪は記憶に新しく今年の雪が気になる季節となってきましたが、未だに収束する気配のないコロナの行方も心配でなりません。当院では院内感染対策のため原則面会禁止としており、患者さん、ご家族には多大なご迷惑をお掛けしています。必要に応じてコロナの診療を行っていますが、同様に重要と考えているのは通常診療の継続です。市民のみなさんが安心して暮らせるよう、病院全体が一丸となって診療を行っていますのでご理解をお願い申し上げます。

もくじ

かかりつけ医をもちましょう	①
連携医療機関・介護福祉施設のご紹介	②
当院の活動報告	③
トピックス	④

連携医療機関・介護福祉施設のご紹介

いつもありがとうございます。



福嶋内科医院
院長
福嶋 隆三



地域医療連携室にはいつも大変お世話になっています。私の医院では、アルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症、パーキンソン病などの神経変性疾患の患者さん、脳血管障害の患者さんが多く、高齢化と共に歩行困難や廃用症候がすすみ、在宅療養を余儀なくされる方も多く、常時70名前後の方に訪問診療を行っています。呼吸器感染や尿路感染を繰り返す方もおり、連携室を通して各科の先生方に入院をお願いすることもしばしばです。貴院の訪問看護師さんにお世話になる事もあります。

また、新鮮な脳血管障害の方、頸髄症など脊髄症の方、頸椎や腰椎の椎間板ヘルニアによると思われる神経根障害の疑わしい方なども新患で受診されることもしばしばです。そのような患者さんには医療連携室を通じ貴院で速やかにMRIを行って頂いており、病変が明らかな患者さんは、貴院の循環器内科や脳神経外科、整形外科等のそれぞれの専門分野の先生に紹介させて頂いております。

貴院に通院されている方で、当院を受診された方の問い合わせ等にも丁寧に対応して頂いており、資料を速やかに届けてもらうなど、ご多忙のなか、いつも無理なお願ひばかりしています。これからも宜しくお願ひいたします。

「医療と介護」その連携に向けて



介護老人保健施設
西風苑
支援相談員
斎藤 義孝



原稿の依頼を頂いたとき、率直に驚きと戸惑い、更にためらいもありましたが、日頃より快く『連携』させて頂いているソーシャルワーカーの皆さん、退院支援や病棟で活躍されている看護師の皆さんへ思いをはせると、お断りするという選択肢は無く、自らの力量も顧みずお引き受けした次第です。

今年8月、私事ではありますが介護支援専門員専門研修に参加しました。

そこで『医療との連携』というテーマの基、ケアマネジャーの意見や経験を聴く機会を得ました。いくつか紹介しますと、「そもそも行きにくい(敷居が高い)」・「医療関係者は自分たちを下に見ている」・「専門用語を多用され面食らった」・「病棟で声を掛けても返事をしてもらえなかった」等です。これは介護者側の一方的なイメージや医療に対する苦手意識に起因する事もあるかと思ひます。もちろん医療関係者側においても同様に介護者側に対しての意見や思いがあることは容易に想像できます。

まずはこのあたりの「溝」や「壁」をクリアすることから始め、互いがパートナーとして認め合い、やがて健全な本当の意味での『連携』を構築できるよう双方で努力していきたいものです。

出来るはずです。

『主人公』は誰なのかを我々は知っていますから。

当院の活動報告

より積極的な保健活動



平鹿総合病院
保健福祉活動室
課長

伊藤 大輔

保健福祉活動室では、当院理念の一つでもある『より積極的な保健活動』を基本理念とし、保健師7名・看護師11名・看護補助者1名・検査技師1名・事務7名の総勢27名で健診業務に従事しております。実施している健診の内容としては、人間ドック（日帰り・宿泊）、専門ドック（脳・乳腺）、事業所健診、生活習慣病予防健診、各種がん検診（胃がん・大腸がん・肺がん・結核・子宮がん・乳がん・前立腺がん・他）、有機溶剤検診、特定健康診査（後期高齢者含む）など幅広く対応致しております。

また、昨年度末から行っておりますコロナワクチンの接種では、院内・院外の医療従事者から始まり、住民向けの集団接種会場への出務も展開中であります。

スタッフ一同、コロナウィルスの早期終息を願いながらワクチン接種に取り組ん

で参りますとともに、地域住民の方々のご健康を守るべく健診活動にも尽力して参りますので、今後とも宜しくお願い致します。



院内認定看護師が誕生しました!!



平鹿総合病院
皮膚排泄ケア認定看護師
看護師長

内藤 真奈美

昨年度、院内認定看護師コースの研修がスタートしました。

半年間の研修を終え、17名（褥瘡領域11名、ストーマケア領域11名、両領域認定5名）の方が院内認定看護師として認定されました。現在、実践の場で活躍しております。

今年度もストーマ領域と褥瘡領域の研修を行っており、専門的知識と実践能力をもつ看護師を育成しております。

それぞれ学んだ専門性を実践の場で生かし、患者さんや家族に安心と信頼を与え、病棟スタッフへの実践の伝承を期待しています。



令和3年度 看看連携セミナー 開催!

日時 令和3年8月27日(金) 17:15~18:15

場所 平鹿総合病院 講堂

テーマ 「心不全患者の情報共有を見直そう」

～再入院を予防し、最期まで苦痛なく自分らしい生活を送るために～

対象 当院の外来・病棟看護師（クリニカルラダーⅢは必須）入退院支援看護師

プログラム

1 看看連携アンケート結果報告

「心不全の増悪予防における
多職種連携に関するアンケート」
地域医療連携室 大沢 知佳

2 グループワーク(事例検討)

- ・心不全の原因や重症度、ADL、認知機能に応じたケア・意思決定支援について、振り返ってみよう。
- ・ケアの継続のために、地域の看護師と共有が必要な情報について、看護サマリーを使って考えてみよう。

3 まとめ

もらってうれしい
看護サマリーをつくらう!



当室では、在宅療養における看護の質と患者のQOLの向上を目的に、平成29年から地域の訪問看護師や施設看護師とともに看看連携交流会を開催し、研修やグループワークを重ねてきました。新型コロナウイルスの感染対策のため、今年は院内看護師を対象にセミナーを開催し、心不全患者の多職種連携アンケートの結果をもとに、地域の看護師との情報共有について考察を深めました。

患者紹介に関するお願い

紹介患者診療予約の申し込み …… 地域医療連携室

TEL.0182-45-6012(連携室直通) **FAX.0182-32-0698**(連携室専用)

※外来診療申込書と診療情報提供書をFAXにてお送りください。

救急搬送の依頼 …… 希望する診療科の当番医へお電話ください。

TEL.0182-32-5121(代表) **FAX.0182-32-0649**(救急搬送対応)

※急性心筋梗塞や急性冠症候群が疑われる場合 [緊急心カテホットライン: **PHS.070-6498-5960**]

地域医療連携室スタッフ

室長 榎本 好恭
副室長 堀川 洋平
看護師 大日向久美子
大沢 知佳
事務 橘 善幸
中嶋 秋子

平鹿総合病院

〒013-8610 秋田県横手市前郷字ハツ口3番1
代表 TEL:0182-32-5121 FAX:0182-33-3200
URL : <http://www.hiraka-hp.yokote.akita.jp/>

地域医療連携室

* 月曜日～金曜日(土日祝日除く) 8:30～17:00
時間外は救急センターへご連絡をお願いいたします。
直通 TEL:0182-45-6012 専用 FAX:0182-32-0698
E-mail : tiiren@hiraka-hp.yokote.akita.jp